令和 4 年 6 月 28 日(火)　胆江日日

資格取得を後押し

電気工事2団体 工業系学校へ資材贈る

県電気工事業工業組合水沢支部（千田新一支部長、組合員26社）と県電業協会奥州支部（同支部長、会員5社）は、県立産業技術短期大学校水沢校（清水健司校長）と県立水沢工業高校（日當仁己校長）に練習用資材を贈呈した。

08（平成20）年から続く両団体の共同事業。第2種電気工事士の資格取得に向け、より実践的な試験対策に役立ててもらおうとケーブルを贈っている。所属会社の工事で発生する破材（切れ端など）をリサイクル業者に売却し、新たな資材を購入。今回は両校にVVFケーブル4種計約11万円相当を贈った。

水沢工高でこのほど開かれた贈呈式には、千田支部長と酒井清和・同組合水沢支部青年部長が出席。7月に技能試験を控える電気科1年の千葉卓弥さん(16)が受け取り「有効に活用させていただき、合格に向けて全力で励みます」と誓った。

千田支部長は「将来の活躍のために、若者の成長に役立ててほしい。県内から多くの専門人材が生まれ、地域を支えるために一緒に励むことが何よりの願い」と話していた。

２校へ資材を贈った千田新一支部長（左）ら＝水沢工業高校